

新潟大学歯学部入学おめでとう

歯学部長 花田 晃治

新潟大学歯学部への入学おめでとうございます。皆さんが新潟大学歯学部を選んだことは、これからの将来を考えたとき、慧眼であったと思います。なにゆえにそう言えるかというと、

今から2年前、文部大臣から諮問を受けた大学審議会は、これからの大学は「競争的環境のなかで個性輝く大学」になりなさいという答申を行いました。競争的環境とは、クラスのなかであって、歯学部のなかであって、地域社会のなかであって、日本の社会のなかであって、世界のなかであって、常に自分を磨き、自分を鍛え、社会が、患者さんがほんとうに求めている歯科医師にまで自分を高められるかということです。

さらに、これを受けて新潟大学歯学部は「21世紀を生き抜く新潟大学歯学部」になることを目標としました。21世紀を迎えようとしている今、社会はglocalizationのなかにあります。国際化の流れとしてglobalな考えは歯科医学、歯科医療の分野にも及んできました。歯科医学の教育、研究は世界的なレベルで始められています。患者さんは世界的に認められている高度な技術に基づいた歯科医療を受けたいと望みはじめました。一方では、社会は地方分権を基本として地域住民の意思に基づいた運営機構に進み始めました。こうしたlocalizationの流れのなかでそれぞれの地域の患者さんは、その地域における最高の歯科医療を受けたいと思っています。Globalとlocalizationの双方の流れ、すなわちglocalizationのなかには皆さんは歯科医師として出てゆくことを義務づけられました。

このように述べてきましたが、入学したばかりの皆さんには難しすぎると思うかもしれませんが、そんなことはありません。具体的には、毎日

の授業に加えて、

1, 総合大学である新潟大学のメリットを生かして、クラスメイトにとどまらずに、多くの人と語り、多くの人々の考え方、生き方を知ってください。そのために部活もいいでしょう。将来、考え方も生活・職業の基盤も千差万別の患者さんに対応するときにはきっと役に立つでしょう。

2, 自分の言葉で、自分の考えを述べ、ディベートする力を身につけてください。名医は黙って治療する時代ではありません。すべての患者さんにインフォームド・コンセント（説明、理解と同意）が必要な時代です。治療にかかわるすべての行為についての的確な説明を、患者さんは求めます。

3, 外国語、特に英会話の力を身につけてください。今や、英語はアメリカ、イギリスの言葉ではありません。世界の共通語になりました。韓国、中国、台湾、フィリピン、タイ、シンガポール、インドネシアなどアジア諸国の歯学部学生も英語で話し、自分を表現することができます。皆さんはまさにグローバルな時代に生き、グローバルな社会に出てゆくのです。

4, 自分の興味のあることに熱中してください。大学には教授をはじめとして多くの教官がいます。教授の語源は、教え授けること、であることから、今までは教授が講義をし、学生はそれをノートにとり、それをもとに試験を受け合格して単位を取る、という形式が長く続いてきました。しかし、そうした時代は終わりました。今は、学生が個々に興味あるテーマに沿って勉強し討論し身につける、教官はそれに的確なガイダンスをし、討議に加わり、学生の理解を助ける、というように学生が主役になりました。これを最近では知識習得型から課題探求能力型への展開と言われている

ます。

5, いつも健康な心身を心がけてください。心身ともに健康な歯科医師だけが患者さんを治療することができます。

新潟大学歯学部の教官は、全員、こうした努力に向かう皆さんとともにいたいと考えています。

皆さんが卒業する平成18年には、卒直後臨床研

修が義務化される予定です。その後大学院への道があります。こうして皆さんは今までの歯科医師よりは高度な専門職業人になることを求められています。長い勉学、研修の道は始まったばかりですが、皆さんを待っている多くの患者さんがいることを信じて、明るく、楽しくそしてある時はきびしく歯学部生を過ごしてってください。

歯学部入学おめでとう

附属病院長 河野正司

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本年も入学者諸君の中には新潟県以外の出身者が沢山いらっしゃいます。日本の各地から、本学で学ぶために、新潟に来てくれました。新潟は海・山にめぐまれ、四季それぞれに、味わいのある美しさを見せてくれる、豊かな土地であります。

諸君は勉学とともに、大いに新潟の豊かな四季の変化を楽しんで、充実した学校生活を過ごしてほしいと思います。

初夏から秋にかけて、食の新潟の主役は「枝豆」でしょう。最初に食卓を賑わすグリーン7号から、最も美味しい茶豆、そして最後に出てくる枝豆「一人娘」と、私たちが大いに楽しませてくれます。秋の新米を楽しむとやがて冬の到来です。待っていた赤塚の大根や佐渡沖の寒ブリを美酒と共に楽しむ 때가新潟にやってきます。

日常生活におけるこのような食物を楽しむ、美味しく食べるには、勿論健康な口腔環境が備わっていなければなりません。この美味しく食べるための主役である「歯」は種々の原因により、残念ながら加齢と共に次々と失われてしまいます。

平成5年に行われた全国的な調査によりますと、60歳では平均11本、70歳で18本の歯が失われ、80歳では24本が失われて残存歯は4本という状態です。歯が無ければ「食」を楽しむことは出来なくなってしまいます。

大変だ！ 4本の歯だけでは枝豆は美味しく食

べられないぞ！

そこで、厚生省と日本歯科医師会は「8020」という、80歳で20本の歯によって食事を楽しもうという運動を押し進めています。現実はまだまだのようです。しかし、失われた歯を義歯によって補綴（ほてつ：人工物で生体の器官を補うこと）すれば、快適な食生活を回復することが可能なのです。

義歯を口腔内に装着すると、咀嚼能力が回復されるだけでなく、顔貌・審美性も、歯のあった時代へと若返り、高齢者にとっては生活意欲の向上へとつながっていきます。

義歯を使用するまではベットに伏していたお年寄りが、義歯の装着により食事ができるようになっただけでなく、ベットから離れて、外出することができるようになっていきます。

これまでは、咀嚼のための道具にすぎないと考えられていた歯が、生活を充実させる意欲の回復などの、精神的状態の向上にも大いに関わってきていることが明らかとなってきました。

野生動物の動物では、歯の寿命がきて抜け落ちると、その動物の寿命も終わっていくことが知られています。栄養を摂取する唯一の道具である歯が失われると、自然に寿命を終えることが、義歯を持たない動物の自然の摂理なのでしょう。

医学の進歩と我々の努力によって手に入れた高齢社会の中で、さらに新入生諸君らの将来におけ

る活躍によって、おいしい食品を楽しく食べ、精神的にも豊かな生活が送れる社会を創造して貰い

たいものです。
新入生の活躍に期待して！

技工士学校入学おめでとう

附属歯科技工士学校長 岩 久 正 明

新入生諸君、入学おめでとう。我等が新潟大学歯学部によろこそ。

この度、諸君が自分の将来の専門として医療職の道を選んだことに深い敬意を表すると共に、近い将来、我々の仲間として国民の健康のために共に手を携えて同じ道を歩む事ができることを心よりうれしく思います。

諸君もよくご存知のように、近年、わが国は世界に類を見ない超高齢化の時代を迎え、国の経済、少子化と労働力、高齢化と福祉政策、環境汚染などなど多くの新しい課題に直面し、その対応を模索しており、一方では、国民の意識は物質文明の進歩の中で急激に変化しつつあり、その Needs は益々高度化・多様化しております。

特に、医療・福祉の分野においては、超高齢化の中で、その長寿の意義が問われ、「わが国の世界に誇るべき長寿が真に国民を幸せにしているのか」という素朴な疑問が持たれ始めています。ベ

ッドや布団に寝たきりで、朝から晩まで天上を眺めて過ごし、点滴で命を永らえる長寿が幸せなのか。「人間の生きる尊厳とは何か」。日本より平均寿命は短い北ヨーロッパの福祉国家の国民はどのような人生を送るのか。少なくともそこには、「美味しく食べ、楽しく話す心豊かな長寿」があります。

諸君の将来の仕事は、人々が生涯を通じて、その人生を豊かに送るために、美味しく食べる機能、楽しく話す機能、他人に不快感を与えないように口腔・顎・顔面の自然の美しさを保つ機能などの回復がその中心となるでしょう。

教育を受ける期間はたったの2年、極めて短い中で多くのものを身に付けなければなりません。もちろん我々医療職は一生が勉強の連続で、生涯教育が必須です。

自ら選んだ道にロマンを持って、共に手を携えて、歩もうではありませんか。